令和7年度
研究集録

幼児と幼児を取り巻くすべての人の
ウェルビーイングを目指した園経営の推進

全国国公立幼稚園・こども園長会

はじめに

全国国公立幼稚園・こども園長会
会長　高橋　慶子

全国の国公立幼稚園・こども園が、日々の教育と保育の中で積み重ねてきた実践の成果をまとめた本研究集録を、令和七年度も刊行できましたことを、会長として深い意義と責任をもって受け止めております。

各園が地域の特色や資源を生かし、幼児一人一人の姿に真摯に向き合いながら紡いできた実践は、国公幼という「学び舎」の質を確実に支えてきました。園長としてその営みを踏まえ、支え、次へとつなぐことは、私たちに託された重い使命であると感じています。

現在、国では、中央教育審議会において、幼児教育ワーキンググループや教員養成部会などが設けられ、幼児教育の在り方をめぐる議論が進められています。こうした時代の中で改めて確認したいのは、国公立幼稚園・こども園が、幼稚園教育要領等に基づき、研究と研修に裏付けられた標準的な幼児教育を継続的に実践してきた、唯一の公的機関であるということです。

本研究集録は、令和七年度をもって一区切りを迎えます。しかしそれは終わりではなく、園長一人一人が積み重ねてきた実践と判断、決断の軌跡が、各園・各地域に確かに根付き、次代へと受け継がれていく節目であると考えています。

各園で磨かれてきた実践という「点」は、国公幼のネットワークによって結ばれ、「線」となり、全国の国公立園の質の向上へと広がっていきます。その流れを止めることなく未来へ手渡すことこそ、今を担う園長の覚悟であると、私は受け止めています。それが「みんなの国公幼」なのです。

今年度も全国の園長先生方の質の高い実践に多くの学びを得ることができました。その学びの一つ一つを次の園へ、次の時代へとつないでいく役割が重要です。本集録が、その役割を担い、自らの実践を振り返り、幼児教育の原点と未来を静かに見つめ直す手がかりとなることを願っております。

最後に、貴重な実践を寄せてくださった全国の園長先生方、教職員の皆様に、同じ時代を担う仲間として心より敬意と感謝を申し上げます。子どもたちの健やかな育ちを支える歩みが、これからも確かに受け継がれていくことを祈念いたします。